

車両検査における検査種別の誤認について

当社が保有する千代田線 16000 系車両 1 編成において、本来実施すべき検査種別にて検査していない車両を運行していたことが判明いたしました。

このことは、お客様の信頼を著しく損なうもので、ご利用のお客様に深くお詫びするとともに、関係者の皆さまにもご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。

本事案を厳粛に受けとめ、安全を第一に、再発防止に取り組んでまいります。詳細は下記のとおりです。

記

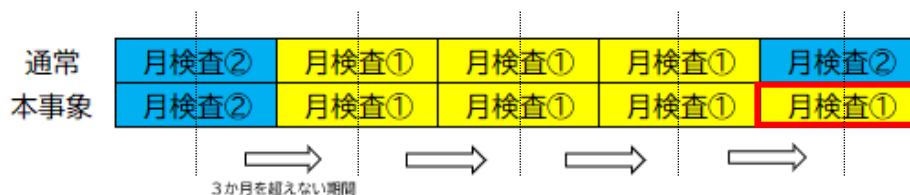
1 概要

2025年2月18日(火)18時頃、千代田線 16000 系車両 1 編成において、本来実施すべき検査種別にて検査せず、一部検査項目が未実施の状態、列車を運行していたことが判明いたしました。

当社では社内基準において、車両の点検を、月検査①(3か月を超えない期間ごとに行う検査で月検査②の検査の一部を省略している)、月検査②(12か月を超えない期間ごとに行う検査)の種別で実施することを定めています。当該編成は2023年12月18日に月検査②を行っており、本来であれば、月検査②を2024年12月18日までに実施すべきところ、誤って月検査①を行っておりました。

このことにより、判明するまで定められた検査項目の一部が未実施の状態、列車を運用しておりました(2024年12月19日~2025年2月18日、62日間、28,780km)。

なお、当該車両については、検査種別を誤認している期間に、事故や故障などは発生しておりません。



2 原因

担当者が作成した検査計画において検査種別を相互確認しておらず、検査種別の登録が誤っていることに気が付かなかったため。

3 当面の対応

- (1)当該の車両は直ちに使用を中止し、2025年2月19日に月検査②を実施いたします。
- (2)当社が保有する、当該編成以外の車両全編成について、検査種別の誤りがないこと及び検査項目の未実施がないことを確認しました。

4 再発防止策

- (1) 本事案を全職場へ周知するとともに、検査種別及び検査周期の考え方について再教育し、複数担当者による相互確認の体制を構築します。
- (2) 月検査①及び月検査②の種別及び周期が確認できる管理システムを構築します。

以上